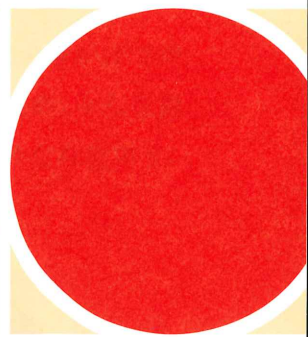
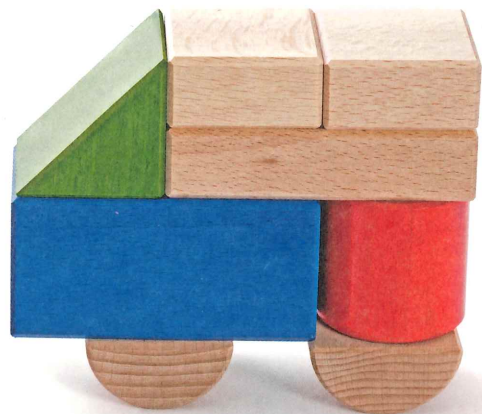
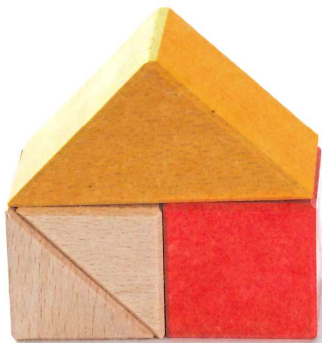


ボーネルンド
積み木のほん



ポーネルンドの積み木を
選んでくださいます、
ありがとうございます。



積み木はよく「あそびの基本」と呼ばれます。それは何故かといいますと、

- ① 子どもの想像によって何にでも見立てられる
- ② いつまでも触れていなくなる木の温かな感触
- ③ くずれる、音が鳴るなど、物事の原理を体験できる

の3つの要素があるからです。子どもが遊ばれるのではなく、自発的なはたらきかけでのみ動き出すもの。しかも、大人に「それは、触っちゃダメ」とは言われないもの。そんな積み木は、子どもがやってみたいことをすべて受け止めてくれる、宝物のような存在です。

子どもと積み木

単純に見える積み木でも、発達段階によってあそび方は大きく変化します。

だいたい1歳半ころまで

- まずは、1個から数個を使い、積み木に親しんでみましょう。
- 構造的に積み上げるあそびは、まだまだです。
- 何かに見立ててぶつぶつ話す、ひたすら並べる、ひたすらくずす。そのくり返し。
- 作ったものにこだわらず、すぐにこわしちゃったりします。

まとめ

このころの子どもは、「発達ニーズ」といって、「頭やからだでやりたい!」と思ったことを、周りの物を使って、とにかくやりたい、しかもくり返しやりたいころ。そうすることで、やりきった満足感と、物の質感や動き、重さなどを体感しながら学んでいます。なので、大人がリードすることなく、危険のないかぎり、やりたいようにやらせてあげることがとても大切です。

だいたい2歳ころから

- 家、ビル、車を作るなど、多くの積み木を使って遊べるようになります。
- 同じカタチ、同じ色、など分類ができるようになります。
- 食べ物のかわり、電車のつもりなど、見立ての道具として活躍します。
- 作ったものを「見て」と求めたり、飾っておきたいと思ったりします。

まとめ

個性も少しずつ出てくるこのころ、生活の中で見たものを再現しはじめ、世界観の広がりを実感できます。また言葉も増えてくるので、作るものに具体性や物語性が出てきます。「こんなのはどう?」などの言葉がけが、子どもの意欲につながります。そして、たくさんの積み木を出して、集団で一緒に遊べるようになります。

ボーネルンドの積み木の特長

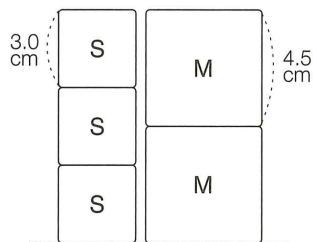
1. 素材

ヨーロッパの森林でゆっくりと時間をかけて育ったブナを使用。時間をかけて乾燥させるので、かたちのくろいが少ないのが特長です。



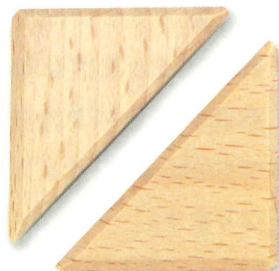
2. 大きさ

子どもが握りやすい大きさを考え、立方体の大きさは、Sサイズは3cm、Mサイズは4.5cm。1.5cmを基尺にしているのが、混ぜて遊ぶことができます。



3. 面取り

かたちや大きさに適した面取りを施しています。積み上げたときの接地面ができるだけ多くなるよう、あえて最低限の面取りにこだわっています。



はじめて積み木に出あうころ

赤ちゃんの目の前に、はじめて積み木を広げてみたとき、どんな反応をするでしょう？

拾い上げてすぐに口に持っていく？これは、その時もっとも敏感な口や舌で物を認識する「口唇期」にあるからです。それ以外にも、手のひらでばんばん叩いたり、カチカチと打ちつけ合ったり、箱からすべて出そうとしたりするでしょう。

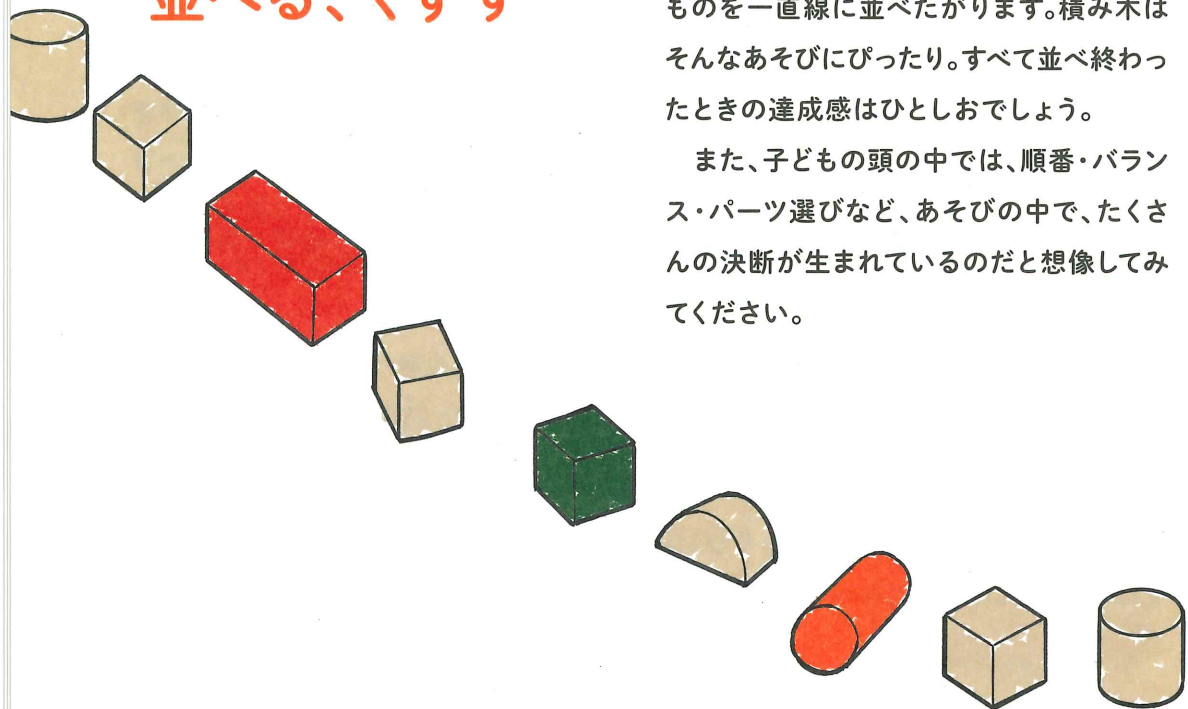
赤ちゃんには、こうした行動を通して、はじめて触れる素材に慣れる時間が必要です。そうして「一体、これは何なのか？」を学んでいるのです。

想像してみてください。大人のわたしたちだって、見たことも触ったこともない物ならば、匂いをかいだり、ツツツしてみたり、じっと観察したりと、五感をフルに活用して、それが何かを知ろうとしますよね？それと同じです。

大人がイメージする「積み木あそび」は、まだ先の話。「まだ遊べないのか」と思わずに、赤ちゃんの探究をゆったりした気持ちで、見守ってあげましょう。

＼遊んでみよう！／

ひたすら、 並べる、くずす

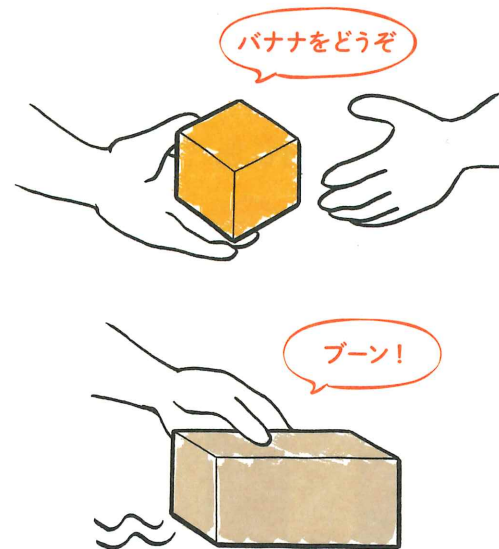


科学的には解明されていませんが、子どもは成長のある時期、同じような大きさのものを一直線に並べたがります。積み木はそんなあそびにぴったり。すべて並べ終わったときの達成感はひとしおでしょう。

また、子どもの頭の中では、順番・バランス・パーツ選びなど、あそびの中で、たくさんの決断が生まれているのだと想像してみてください。

＼遊んでみよう！／

かんたんな 見立てあそび



子どもは長い期間、現実と想像の世界を行ったり来たり。実生活で見たことや聞いたことを、あそびの中で再現することで、「社会性」や「役割意識」を学ぶのです。

そこで活躍するのが、何にでも見立てられる積み木。おままごとの食べ物のかわりになる。「ブーン」と言いながら走らせれば自動車になる。想像力が発動すれば、道具なんて何でもよいのかもしれない。

円柱を拾って、「あ、こんなところに巻きずしが落ちている」と言ってみましょう。想像力豊かな子どもたちは、きっと面白い反応を返してくれますよ。

＼遊んでみよう！／

ぶんるいあそび

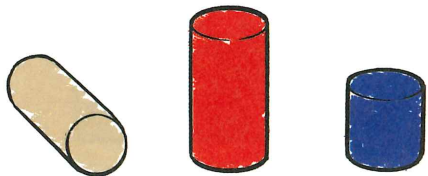
同じカタチ



同じ色



にているカタチ



家のネコと、近所のネコ。違う種類なのに、どちらも「ネコ」だと分かる。また、同じピンク色でも濃さが違うのに、ピンク色が好きな子どもは「これもピンク」と選ぶ。

これってすごいことです。どうして両方ともネコだ、ピンク色だ、と分かるのでしょうか？

「分類あそび」をとおして、共通するところ、違うところを見つけてみましょう。

積み木はとてもシンプルですが、「カタチ」「色」「大きさ」など、どこに着目するかによって、いろいろな「グループづくり」をすることができます。

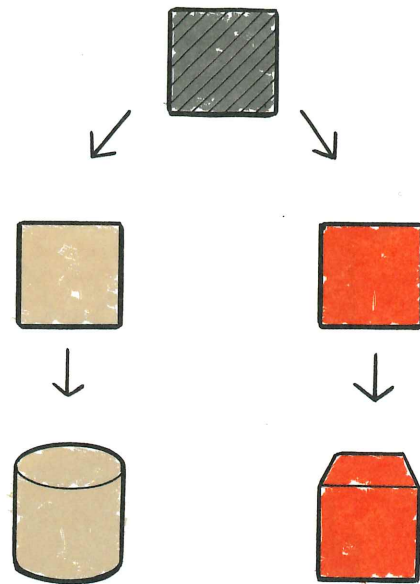
ものの認識は、とても複雑なものです。一つの積み木でも、真正面から見る時と、立体的に見る時とでは、違って見えます。

大人は、それを当たり前のように行いますが、たとえばスクリーン越しの影絵だったら、すぐに分かるでしょうか？「同じ？」「違う？」「どこが違う？」と対話するだけでも、もの見方を学ぶことができます。

小学生ごろになれば、「2つの三角形、カタチは違うのに、両方とも三角形である」ということを学びます。共通する部分はどこでしょう？大人も一緒に言葉にしてみましょう。

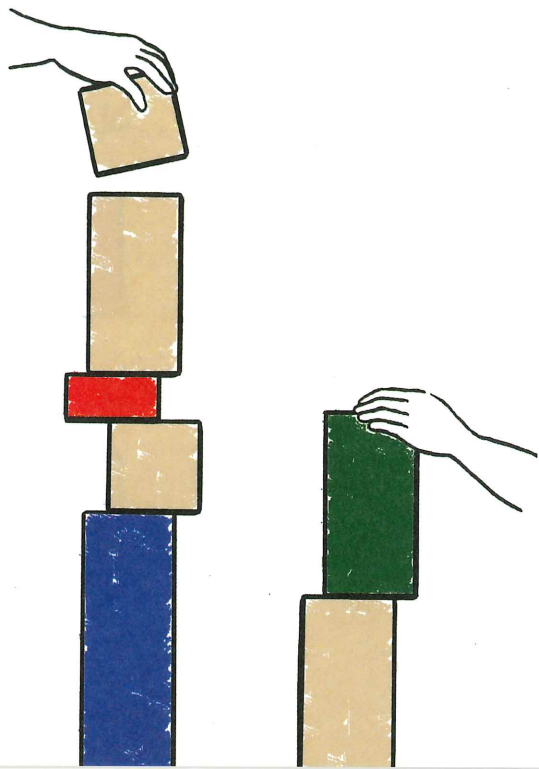
＼遊んでみよう！／

シルエットクイズ



＼遊んでみよう！／

より高く、 より大きく



子どもと一緒に「あの高さまで積んでみよう！」と目標を立ててみましょう。

いちばん最初に小さなパーツを置いて不安定なように見えても、はじめは何も言わないように。すぐにくずれて、子ども自身が「はて？」と考えるまで、ここは待ちましょう。

子どもが届かない高さになったら、ママやパパがお手伝い。子どもは「自分でやること」も喜びですが、ママ・パパと一緒に遊ぶことも、うれしいのです。

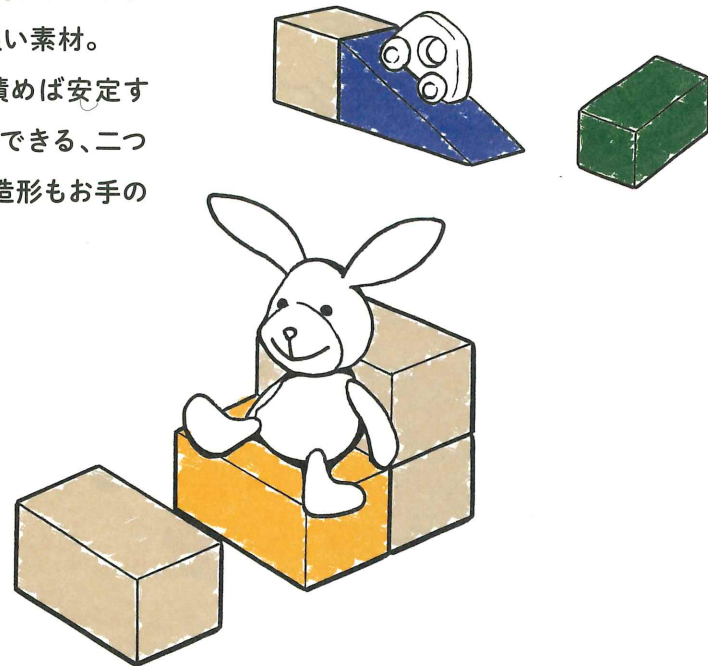
＼遊んでみよう！／

世界観を つくりあげる

子どもの中に想像力が育ってくると、身のまわりのミニカーやお人形などを使った想像あそびが始まります。

積み木は、時には道路に、時にはソファに、何にでもカタチを変える良い素材。

このころには、どのように積めば安定するか、三角形を使えば坂道ができる、二つのピースでイスができるなど、造形もお手のものです。



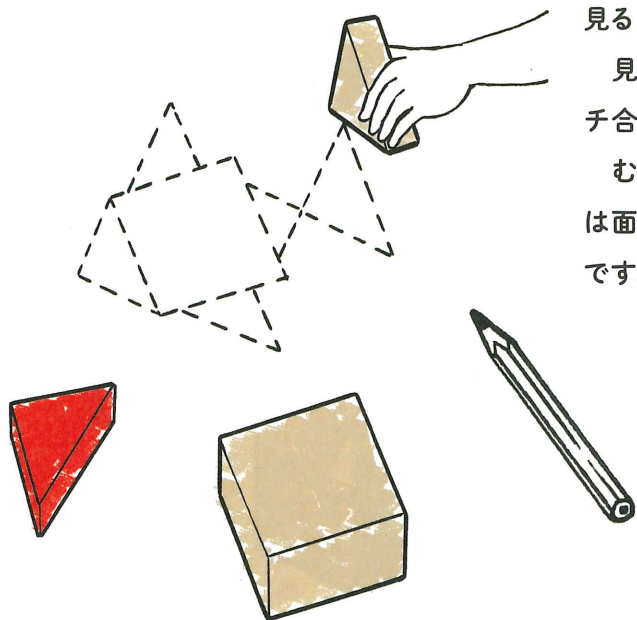
\遊んでみよう!/\

かたち合わせ

画用紙の上に積み木を置いて、そのカタチをえんぴつでふちどる。単純な正方形や丸ならきっと簡単ですが、積み木にはよく見ると、いろいろな面があります。

見つけるのが難しい面をふちどって、カタチ合わせゲームをして遊びましょう。

むずかしい問題を作りたければ、三角形は面がいろいろな大きさなので、ねらい目です。



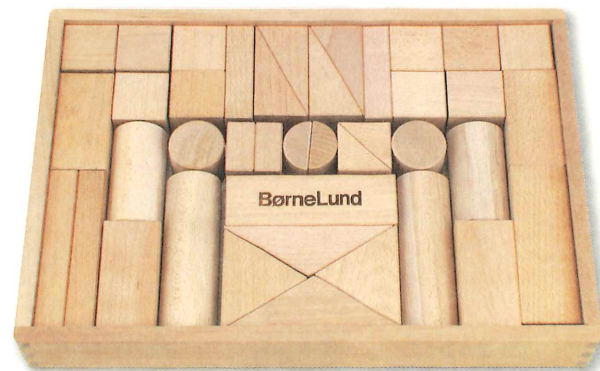
\遊んでみよう!/\

パターンあそびから、お片付け

辺の長さが揃うこと、隙間にぴったりおさまることが分かってきたら、積み木のケースにうまくピースが入るようにお片付けをしてみましょう。

大人でもむずかしいこの作業、子どもがひとりでできたら、当たり前と思わないで、たくさんほめてあげましょう。

明日もまた、まるで新しい積み木のように、遊び始める楽しみになります。



/ また明日遊ぼう! \

あそびと教育



ボーネルンド

ボーネルンドの
オリジナル商品の
こだわりについて



ボーネルンドは、赤ちゃんから小学生までの
成長に欠かせない生活のための道具を
発達段階ごとにご用意しています。

株式会社 ボーネルンド

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-3-12 3F

☎ 0120-358-518 月～金10:00～17:00(土日・祝祭日除く)

www.bornelund.co.jp

ボーネルンド

検索

Copyright © 2021 BørneLund Inc. All rights reserved.